

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会活動報告

PMI日本支部 ソーシャルPM研究会

2016年7月10日

ソーシャルPMの啓蒙活動としてFORUMで発表した内容を、より多くの方に知っていただくため、特別に公開することにいたしました。

自己紹介(大沼 大)

■ソーシャルPM研究会の入会経緯

2015年の8月に父の故郷である南三陸町を震災後初めて訪れ、復興道半ばの状況を目の当たりにし、自分にできる社会貢献について考えたことがきっかけで、2015年10月に入会しました。

■ソーシャルPM研究会での活動

実践WGのメンバーとしてソーシャル課題における実践活動を行っております。たまたまご縁があり、2016年2月から南三陸町のNPOを支援しております。

■本日の講演について

ソーシャルPM研究会やソーシャルプロジェクトについてよくご存知でない方にも理解できるよう分かり易くお話したいと思っております。

- ① はじめに
 - ソーシャルプロジェクトとは？
 - ソーシャルプロジェクトに関わるNPOの活動状況
 - NPOが求める企業等との連携
 - 企業と社会課題の関係
 - ソーシャルプロジェクトの問題点

- ② ソーシャルPM研究会について
 - ソーシャルPM研究会とは？
 - 本研究会とソーシャルプロジェクトの関わり
 - ステークホルダーとの関係図
 - 本年度の活動計画
 - 各WGの活動紹介

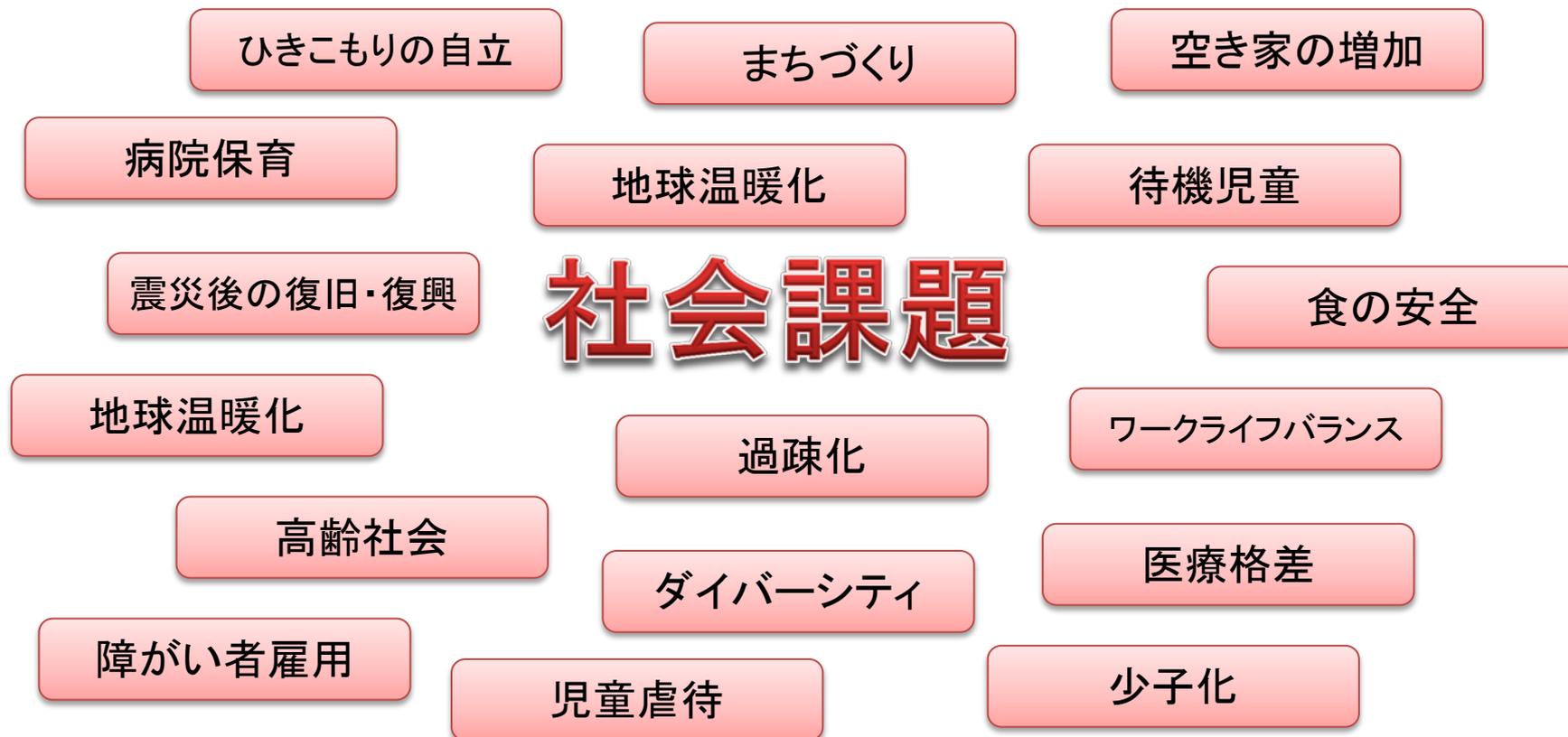
- ③ ソーシャルPM手法について
 - ソーシャルプロジェクトの問題解決に向けて
 - ソーシャルPM手法の概要
 - ソーシャルPM手法体系図
 - ソーシャルPM手法の内容

- ④ ソーシャルPM手法の応用について
 - 実践活動報告: 宮城県南三陸町NPO支援

①はじめに

ソーシャルプロジェクトとは？

社会課題の解決を目的とする活動をソーシャルプロジェクトと定義



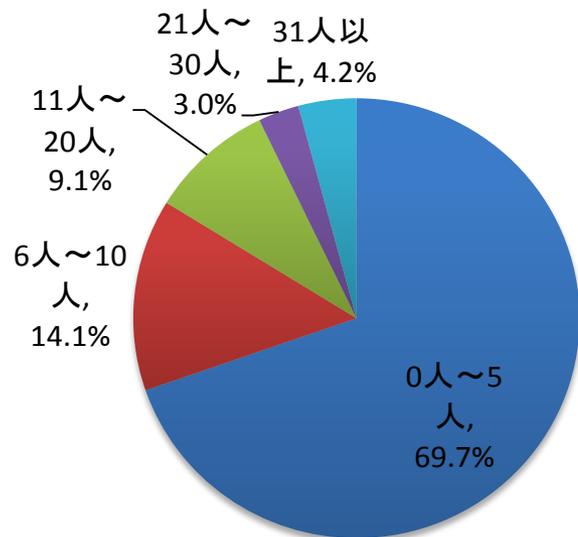
社会課題(社会問題)は、一般の人々にとってもその存在が知れ渡っており、社会に属しながらその意思決定に参加したがる大衆にあってすら問題視する事柄である。この社会課題に属するものは広範囲に影響を与えるため、多くの人々が解決を望み、また解決に尽力する人も多い。しかし余りに普遍的な問題であるために、各々のケースは解決しても類似するケースが多く発生する。そのため、それぞれの事象にはそれぞれに即したケアが求められるなど、一朝一夕には解決し得ない問題でもある。参考:ウイキペディア(社会問題)

ソーシャルプロジェクトに関わるNPOの活動状況

NPO法人数 (2016年3月末時点)

50,870

NPOの常勤有給職員数 (n=475)



NPOの主な活動分野 (n=473)

活動分野	割合
保健、医療又は福祉の増進を図る活動	35.9%
子どもの健全育成を図る活動	9.7%
学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	9.1%
環境の保全を図る活動	9.1%
国際協力の活動	5.9%
まちづくりの推進を図る活動	5.7%
職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	4.7%
上記の活動を行う法人の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	4.7%
社会教育の推進を図る活動	2.7%
人権の擁護又は平和の推進を図る活動	2.5%
災害救援活動	1.9%
観光の振興を図る活動	1.3%
男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	1.3%
農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動	1.1%
経済活動の活性化を図る活動	1.1%
上記の活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動	1.1%
地域安全活動	0.6%
情報化社会の発展を図る活動	0.6%
消費者の保護を図る活動	0.6%
科学技術の振興を図る活動	0.4%

様々な課題に取り組むNPOが存在するが、約7割は5人以下の小規模組織

「NPO」とは「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。したがって、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てることとなります。このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格(注)を取得した法人を、「特定非営利活動法人(NPO法人)」と言います。NPOは法人格の有無を問わず、様々な分野(福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など)で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

出典：内閣府NPOホームページおよび政府統計の総合窓口「特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査(平成27年度)」

NPOが求める企業等との連携

内容	割合(%)
企業等及び企業等の社員からの寄附の受入れ	63.9
企業等からの助成金の申請・受入れ	58.4
企業等の社員のプロボノ等による技術支援	38.2
企業等の設備や機械機器の活用	18.4
出向等を通じた人事交流	14.6
企業等との連携は期待していない	5.7
企業等との連携は必要ない	4.0
その他	10.3

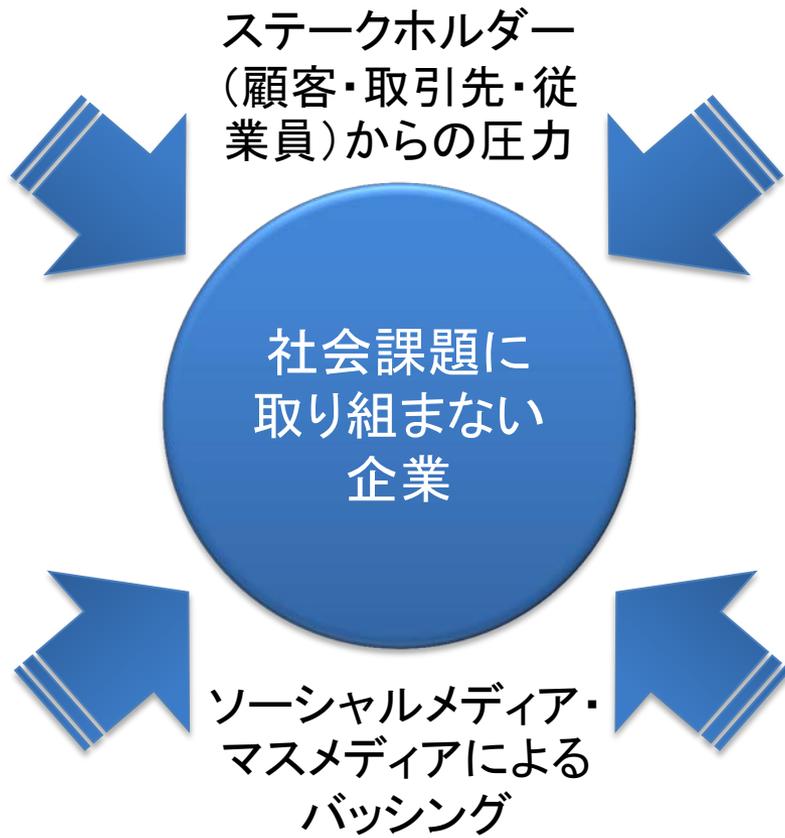
(n=474)

資金面での支援に加え、プロボノ等による人的支援も期待されている

出典：政府統計の総合窓口「特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査(平成27年度)」

企業と社会課題の関係

ビジネスパーソンでさえ社会課題と無関係ではいられない時代へ



ソーシャルプロジェクトの問題点

1 ニーズ把握とゴール設定が困難

2 ステークホルダーが様々である

3 プロジェクトの成果が見えにくい

4 思い通りに進まない

5 優先順位がつけられない

6 持続可能性に問題がある

これらが
複合的かつ複雑に
絡み合うのが特徴

ソーシャルプロジェクトに適したプロジェクトマネジメント手法が望まれる

②ソーシャルPM研究会について

ソーシャルPM研究会とは？

• ミッション

社会課題の解決を目的とする活動(ソーシャル・プロジェクトと呼ぶ)のマネジメントに適するプロジェクトマネジメント手法を開発し、普及することにより社会の発展に貢献する。

• ビジョン

ソーシャル・プロジェクトについて、その実行組織(自治体、企業、NPO等)と協働して以下の状況を目指す。

WG1 (事例調査WG)	ソーシャル・プロジェクトの実態を調査し、その遂行上必要なPMニーズを把握する。
WG2 (手法開発WG)	期待する成果を挙げることができるソーシャルPM手法を開発し体系化する。
WG3 (普及活動WG)	広く社会全般にソーシャルPM手法を発信し、実活用が可能な状態にする。
WG4 (実践WG)	協働する組織にソーシャルPM手法を適用して成果を検証する。

本研究会とソーシャルプロジェクトの関わり

2011年3月

東日本大震災直後の理事会で、PMI日本支部として復興支援プログラムを実施することが決定される。

2011年～
2013年

PMI本部が持っている復興支援プロジェクトマネジメントのパッケージを翻訳して、日本の状況への適合を検討するとともに、実際に復興支援に携わっている自治体やNPOのプロジェクトマネジメントをサポートすることを中心に活動を行う。主なプロジェクトは以下の5つ。

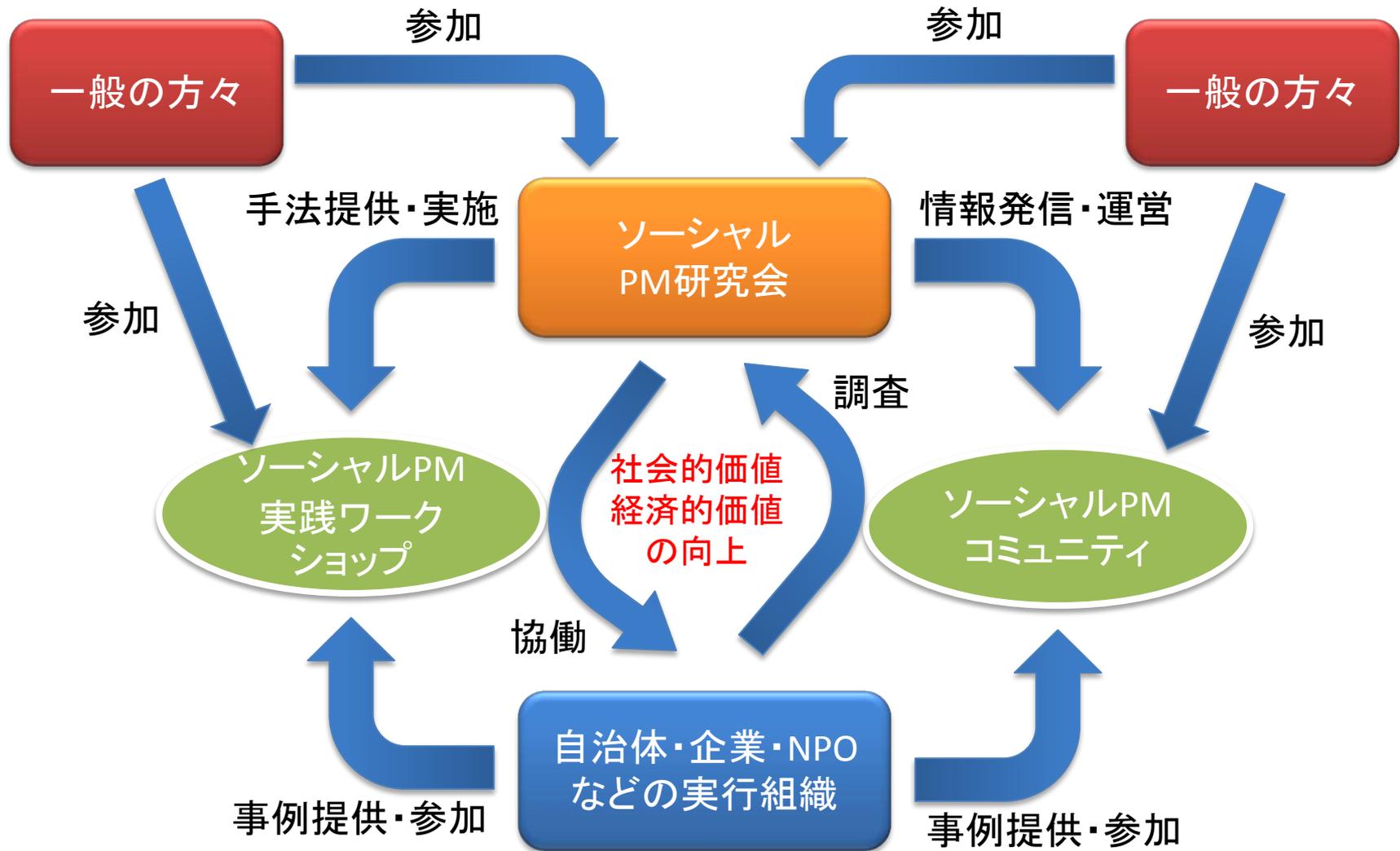
- ・南三陸ネイチャーセンター復活プログラム(南三陸町)
- ・南三陸・慶應の森活用プロジェクト(慶應義塾)
- ・復興支援活動検証調査(iSPP)
- ・情報支援レスキュー隊プロジェクト(iSPP)
- ・東北6県ROLLプロジェクト(東の食の会)

2014年1月

PMI日本支部が培ってきたプロジェクトマネジメントの知見を活用・展開することによって、社会的課題の解決に貢献することをミッションとして、「ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会」を発足。

様々なソーシャルプロジェクトのプロジェクトマネジメントサポートを通じ、従来のプロジェクトマネジメント手法では対応が難しいことを実感する

ステークホルダーとの関係図



本年度の活動計画(その1)

WG1 (事例調査WG)

ステークホルダー・マネジメント

- ・ステークホルダーの識別、及びその特性に応じた関係性構築のための取組みの推進
- ・ソーシャルPM実践ワークショップの参加者へのフォローアップ

ソーシャル活動事例調査

- ・ソーシャルPM実践ワークショップに向けた事例調査
- ・IT DART, IT X災害等のソーシャル活動実施団体との共同研究

広範アンケート調査

- ・ソーシャル活動を実施しているNPO・企業・団体を対象に、広範アンケートによるニーズ調査を実施

WG2 (手法開発WG)

ソーシャルPM実践ワークショップ - 準備と実施

- ・ワークショップ内容の検討
- ・ワークショップの実施

ソーシャルPM実践ワークショップ - フィードバック分析

- ・事前及び事後アンケートの準備
- ・事前及び事後アンケートの結果分析
- ・次期ワークショップ用検討資料の準備

ソーシャルPM実践ワークショップ - フォローアップ

- ・ソーシャルPM研究会及び関連団体の実際の運営とワークショップ内容の比較
- ・実践的テンプレートの作成と公開

本年度の活動計画(その2)

WG3 (普及活動WG)

ソーシャルPM実践ワークショップの開催で成果発表

- ・ソーシャルPMを深く認知してもらう
- ・ソーシャルPM手法を評価してもらう

研究会活動をWeb・Facebookで情報発信

- ・ソーシャルPMの玉手箱となる
- ・ソーシャルPMを広く認知してもらう

ソーシャルPMコミュニティの活性化

- ・ソーシャルPM実践に浸かりたい人のたまり場
- ・実体験の発信の場

WG4 (実践WG)

実際のソーシャル・プロジェクトに参加して、その円滑な推進を支援する。

その経験から得た教訓をソーシャルPM研究にフィードバックする。

研究会が開発したソーシャルPM手法を適用してその成果を評価し、フォーラム等で発表する。

支援プロジェクト

- ・(防災対策)情報支援レスキュー隊プロジェクト他
- ・(防災対策)ITx災害コミュニティ支援
- ・(まちづくり)コミュニティカフェ「風のやすみば」支援
- ・(復興支援)南三陸町NPO支援

手法開発WG:実践ワークショップ開催

研修タイトル	研修の狙い	実施予定
ソーシャル・デザイン思考実践	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題の本質を捉える ・独創的なアイデアを創出し、ソリューションを提示する 	2015年12月 (実施済み)
ソーシャル・ベネフィット マネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの立ち上げ時点で、ミッション／ビジョン、戦略計画、プログラム・ベネフィットの関係性を明確化する 	2016年1月 (実施済み)
ソーシャル・ステークホルダー マネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なステークホルダーの期待をどうマネジメントするか、識別、影響力の発揮方法を理解する 	2016年3月 (実施済み)
ソーシャル・ポートフォリオ マネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・創出したアイデア、ソリューション、実現施策の投資価値を最適化する 	2016年5月 (実施済み)
ソーシャル・ビジネスモデル デザイン実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルソリューションをビジネスとして成立させて持続可能性を考慮してビジネスモデルをデザインする手法を理解する 	2016年8月
ソーシャル・アジャイル マネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考から創出したアイデアを短期間でサービス／成果物として構築し、社会・市場からフィードバックを得る方法を理解する 	2016年9月

実践ワークショップは全て満席となり、参加者からは高い評価を獲得。
二巡目の実施については現在検討中。

申し込みは、「PMI日本支部」ホームページより ⇒ <https://www.pmi-japan.org/event/>

手法開発WG: 実践ワークショップの様子



普及活動WG: ソーシャルPMコミュニティ

『PMI日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』(Facebook非公開グループ)
対象: ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会のメンバー限定



リニューアル
公開グループ化(承認制)

ソーシャルPMコミュニティ

2015年6月~

<https://www.facebook.com/groups/1488714048013631/>

目的	<ul style="list-style-type: none">ソーシャル活動家のニーズとプロジェクト・マネジャーのシーズを融合の場ソーシャルPMに関わる事例、手法、トピック、イベントの紹介などの情報交換、共有を図る
メンバー	2016年5月時点 登録者81人 <ul style="list-style-type: none">ソーシャル活動家プロジェクトマネジメントの手法を活かしてソーシャル活動に取り組もうという志がある方PMI日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会のメンバー
主催者	PMI日本支部ソーシャルPM研究会

2016年度 活性化施策

ソーシャルPM研究会からの発信強化
参加メンバーの増加
ソーシャルPM研究会 連携団体の情報についてのご紹介

普及活動WG: ソーシャルPM研究会の広報

【PMI日本公式サイト】

- ・当研究会のイベント告知
- ・連携団体のイベント／プロマネ募集情報
- ・セミナー資料等のアーカイブ

【その他】

- ・広報活動全般
- ・問い合わせ対応



The screenshot shows the PMI Japan Chapter website. The main navigation bar includes links for 'お問い合わせ' (Contact), 'サイトマップ' (Site Map), 'よくあるご質問' (FAQ), 'English News', and '検索' (Search). Below the navigation bar, there are links for 'PMI®試験資格について' (About PMI® Exam Qualifications), 'イベント・セミナー' (Events/Seminars), 'ブックストア' (Book Store), 'PMI日本支部について' (About PMI Japan Chapter), 'お知らせ' (Notice), and '会員ログイン' (Member Login).

PMI日本支部の部会活動

ホーム > PMI日本支部の部会活動 > 研究会 > ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 参加者募集

2015年07月09日改訂
PMI日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

リーダー / 主な所属メンバー

[リーダーからのメッセージ]

<ソーシャル・プロジェクト支援の必要性>
復興支援プログラムの活動に参加して、被災地の方々や支援NPOのメンバーと接するうちに、震災復興ばかりでなく、社会的な課題に取り組むプロジェクトが数多く存在し、それらの円滑な進行のために適切なマネジメント手法の導入が必要ということに気がきました。

<ITプロジェクトとは異なるアプローチが必要>
社会的な課題への取り組みは、従来PMI日本支部の多くのメンバーが携わってきた情報システムの開発とはプロジェクトの環境が全く異なるため、アプローチに工夫が必要ですが、基本的なマネジメントの考え方は十分に役に立つと思われまます。

<ソーシャルPM研究会にご参加ください>

PMI日本支部の部会活動

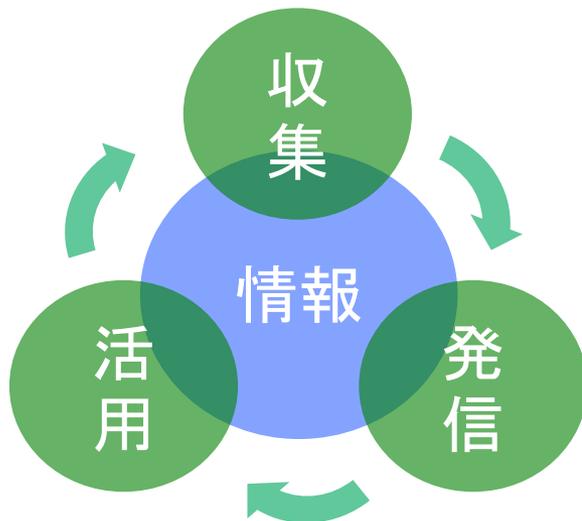
- 戦略委員会
- 業務委員会
- 委員会
- 研究会
 - ビジネスアナリシス研究会
 - アジャイル プロジェクト マネジメント 研究会
 - ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会
 - 女性PMコミュニティ WomenOBF
 - PMツール研究会
 - PMCDF実践研究会
 - PMO研究会
 - ポートフォリオ/プログラム研究会

- 災害時に迅速に被災地に赴き、情報の収集・活用・発信に関わる支援活動を行います。
- 私たちが、5年前から協力してきた「情報支援レスキュー隊IT DART」が熊本地震復興支援では、発災2日後には先遣隊4名が行って、現地の状況を把握し立ち上げたFacebook Group には約4千人のメンバーが集まりました。

また、IT DARTでは、後方支援メンバーとの協力により、

- ・自治体ホームページからの情報発信のバックアップ
- ・災害ボランティア募集状況一覧
- ・ボランティアセンターに持ち込むパソコンのセットアップ

などに取り組みました。



ソーシャルPM研究会からは、7名が参加し、運営委員会(事務局)とWGの橋渡し役として、プロジェクトの立ち上げと各プロジェクトリーダーへの支援(テンプレート化、要件定義、チームビルディング、進捗管理、活用などのプロセスの最適化など)に取り組んでいます。

実践WG:コミュニティ・カフェ 風のやすみば

- 人生の最後まで、住み慣れた地域で誰もが自分らしく生きるために。ゆるやかにつながることで、ぬくもりのある町へ。 (NPO法人 風のやすみば 加藤代表のメッセージ)
- 私たちは、文京区社会福祉協議会の「フミコム」活動と協力して、「助け上手、助けられ上手な関係」の実現に向けた取り組んでいきます。



ソーシャルPM研究会からは、4名が意見交換に参加し、

- ・地域に根ざしたカフェの運営
- ・暮らしやすさに貢献できるサービス
- ・多世代交流やクールシニアの活躍
- ・徘徊する前にできることの啓蒙

などをはじめ、フミコムのコーディネータ（地域福祉、活動支援、ボランティア）と徘徊老人の事故予防プロジェクトの実現に向けた取り組みも行っています。

引用元

<http://kazenoyasumiba.wix.com/kazenoyasumiba>

<https://www.facebook.com/bunkyofumikomu/?pnref=story>

③ソーシャルPM手法について

ソーシャルプロジェクトの問題解決に向けて

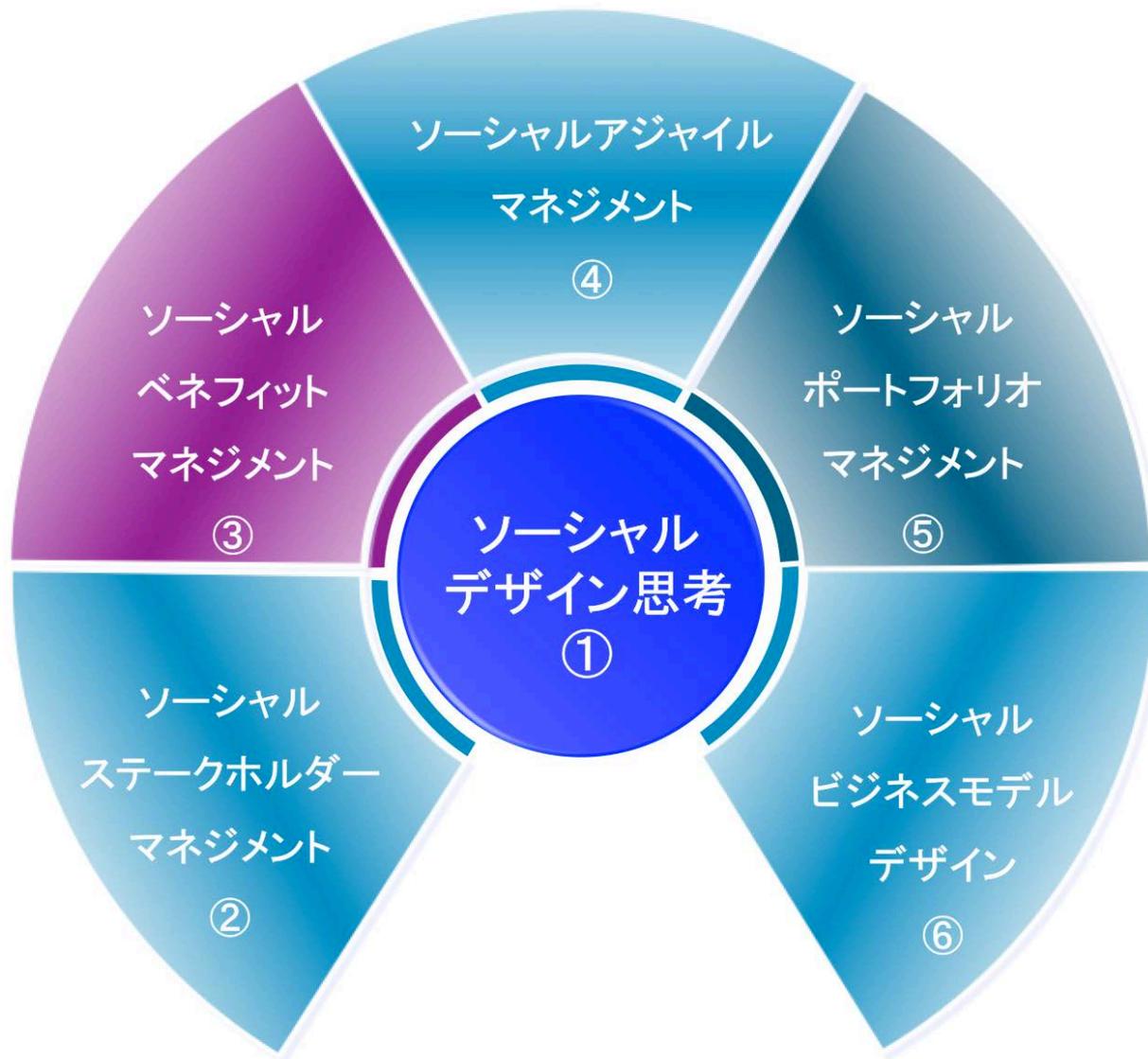
- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------------------|
| 1 | ニーズ把握とゴール設定が困難 | ➡ | ①ソーシャルデザイン思考 |
| 2 | ステークホルダーが様々である | ➡ | ②ソーシャルステークホルダー
マネジメント |
| 3 | プロジェクトの成果が見えにくい | ➡ | ③ソーシャルベネフィット
マネジメント |
| 4 | 思い通りに進まない | ➡ | ④ソーシャルアジャイル
マネジメント |
| 5 | 優先順位がつけられない | ➡ | ⑤ソーシャルポートフォリオ
マネジメント |
| 6 | 持続可能性に問題がある | ➡ | ⑥ソーシャルビジネスモデル
デザイン |

ソーシャルプロジェクトの問題に適したプロジェクトマネジメント手法を開発中

ソーシャルPM手法の概要

開発手法	概要
①ソーシャルデザイン思考	現状の社会の状況や人々の行動思考を観察/体験して問題の本質を洞察し、ソーシャル課題を再定義して仮説をつくり、プロトタイピングによる試行錯誤を繰り返してソーシャル課題解決に導くアプローチ
②ソーシャルステークホルダーマネジメント	観察/体験から得られた人々の状況とその変化を事前期待として受けとめながら、関係者の期待やニーズを理解して解決への道筋を検討していくマネジメント
③ソーシャルベネフィットマネジメント	ソーシャル課題の本質を把握して、それを解決するための目標を設定し、実現、達成に向けてたマネジメント
④ソーシャルアジャイルマネジメント	実現ステージで、複数の仮説を一発勝負するのではなく、高速で仮説・検証するためのマネジメント
⑤ソーシャルポートフォリオマネジメント	統合ステージでは、多くの場合、解決策の仮説が複数考えられる。そのとき各ステークホルダーのいろいろなベネフィットを総合的に評価して、優先順位を協議するためのマネジメント
⑥ソーシャルビジネスモデルデザイン	ソーシャルソリューションをビジネスとして成立させて持続可能性を考慮してビジネスモデルをデザインする手法

ソーシャルPM手法体系図



ソーシャルPM手法の内容(その1)

開発手法	論点	ツールと技法
①ソーシャルデザイン思考	<ul style="list-style-type: none"> ・人間中心アプローチである ・顧客経験に焦点を当てる ・インサイトを見極める ・木を見て森もみる枠組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルソナ ・カスタマージャーニーマップ ・エスノグラフィックインタビュー ・水平思考のラテラルシンキング ・アナロジー発想法 ・ソリューションストーリーボード ・ソリューションプロトタイプ
②ソーシャルステークホルダーマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・組織間コラボレーション ・権力を使わず人を動かす原理はあるのか？ ・なぜ人と組織は変わらないのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの重要成功要因(KSF) ・カレンシーの交換 ・免疫マップ ・ソーシャル・ステークホルダー・エンゲージメント
③ソーシャルベネフィットマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・何故、社会課題の解決について測定するのか？ ・社会的インパクト創造サイクル ・行動をインパクトに繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・インパクトに基づく目標設定 ・ミッション・ステートメント ・インパクト目標展開方法 ・ソーシャルロジックモデル ・ソーシャル・ステークホルダー ・ソーシャル・ベネフィット ・ベネフィット・マネジメント ・ベネフィット・コンセプト評価計画作成

ソーシャルPM手法の内容(その2)

開発手法	論点	ツールと技法
④ソーシャルアジャイルマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・アジャイルの価値と原則をソーシャル課題解決活動に活かす ・受益者の求める価値を素早く提供するフレームワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・マインドセット(価値と原則) ・製品ビジョンマップ ・スクラムフレームワーク
⑤ソーシャルポートフォリオマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「正しいことを正しく行う」(Do the Right Things Right) ・ソーシャル・インパクトとソーシャル・キャピタル ・行動の最適化を図るソーシャル・ポートフォリオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネフィットマップ ・ソーシャル・インパクトリスト / ソーシャル・キャピタルリスト ・スコアリグ・モデル ・バブルチャート ・ポートフォリオ・ロードマップ
⑥ソーシャルビジネスモデルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会は、ビジネスモデル構築に苦手意識を持っている ・ビジネスモデルが本当に「持続的競争優位」を高め、「イノベーションの源泉になるのか」 ・BMGをベースに、VPDとTen types of innovationでズームイン、ズームアウト 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリュー・プロポジション・デザイン ・ビジネスモデルジェネレーション ・ten types of innovation ・SWOT分析

④ソーシャルPM手法の応用について

- 南三陸町のNPOを支援するサービスグラントの**プロボノプログラム**に個人として参加
- 実施期間は2016年2月～7月の6ヶ月間
- 南三陸町の小学生を対象とする学習プログラム「わらすこ探検隊」の現行業務(AS-IS)の見える化と業務改善提案(TO-BE)が目的
- チーム構成は以下6名
 - アカウント・ディレクター×1名
 - プロジェクト・マネジャー×1名
 - ビジネス・アナリスト×3名
 - マーケッター×1名
- 最終成果物として以下を納品(予定)
 - 業務一覧
 - 業務フロー
 - 業務改善提案

プロボノとは？

「プロボノ」とは、「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉で、【社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門的知識を生かしたボランティア活動】を意味します。

出典：サービスグラント「サービスグラントとは」
(<http://www.servicegrant.or.jp/program/>)

皆さんが気軽に参加できる社会貢献活動のひとつ

プロボノの役割例(サービスグラントの場合)

役割名	役割の内容
アカウントディレクター	支援先との間での成果物の目標設定から、チームメンバーの編成、チームの立ち上げ、そして、品質管理、アセスメントまで、プロジェクトの基盤づくりを担う役割です。
プロジェクトマネジャー	プロジェクトチームのリーダーとして、各チームメンバーの作業の進捗状況の把握、NPOとの日常的なコミュニケーション、スケジュールの管理等を通じて、プロジェクトを円滑に進行させる役割です。
マーケッター (調査・ヒアリング担当)	NPOの事務局メンバー、理事、ボランティアスタッフ、会員、サービス利用者、支援者、関連分野の専門家等に幅広くヒアリングを行い、各主体のニーズを把握・分析する役割です。
ビジネスアナリスト (業務分析担当)	NPOがプログラムを実施するために必要な業務を洗い出し、構造を整理してまとめる役割です。
テクニカルライター (マニュアル執筆担当)	NPOの活動が広がりやすくなるような、プログラム運営マニュアルの文章を執筆する役割です。
ウェブデザイナー	ウェブサイト・サービスグラントにおいてデザインを担当します。
グラフィックデザイナー	印刷物およびブランディングのプロジェクトで、デザインの制作を担います。
コピーライター	読み手の視点に立って分かりやすいテキストの作成を支援する役割です。
情報アーキテクト(IA) (ウェブサイト設計担当)	ウェブサイトの設計フェーズで、サイト構造や画面仕様(ワイヤーフレーム)を作成する役割です。
マークアップエンジニア	デザインをもとにHTML/CSSのコーディングやCMSの導入を行い、ウェブサイト全体を作り上げる役割です。

支援先NPO「南三陸町復興推進ネットワーク」



【団体名】
一般社団法人南三陸町復興推進ネットワーク

【団体所在地】
宮城県本吉郡南三陸町志津川字天王山132番地4

【事業内容】
「教育を通じた”まちづくり”への貢献」
「若手世代のコミュニティ再生への貢献」
「新規事業の研究・開発」

【主な活動内容】
・南三陸わらすこ探検隊
・南三陸 おらほの酒づくりプロジェクト
・志津川地区まちづくり協議会運営支援
・さんさん朝市 事務局

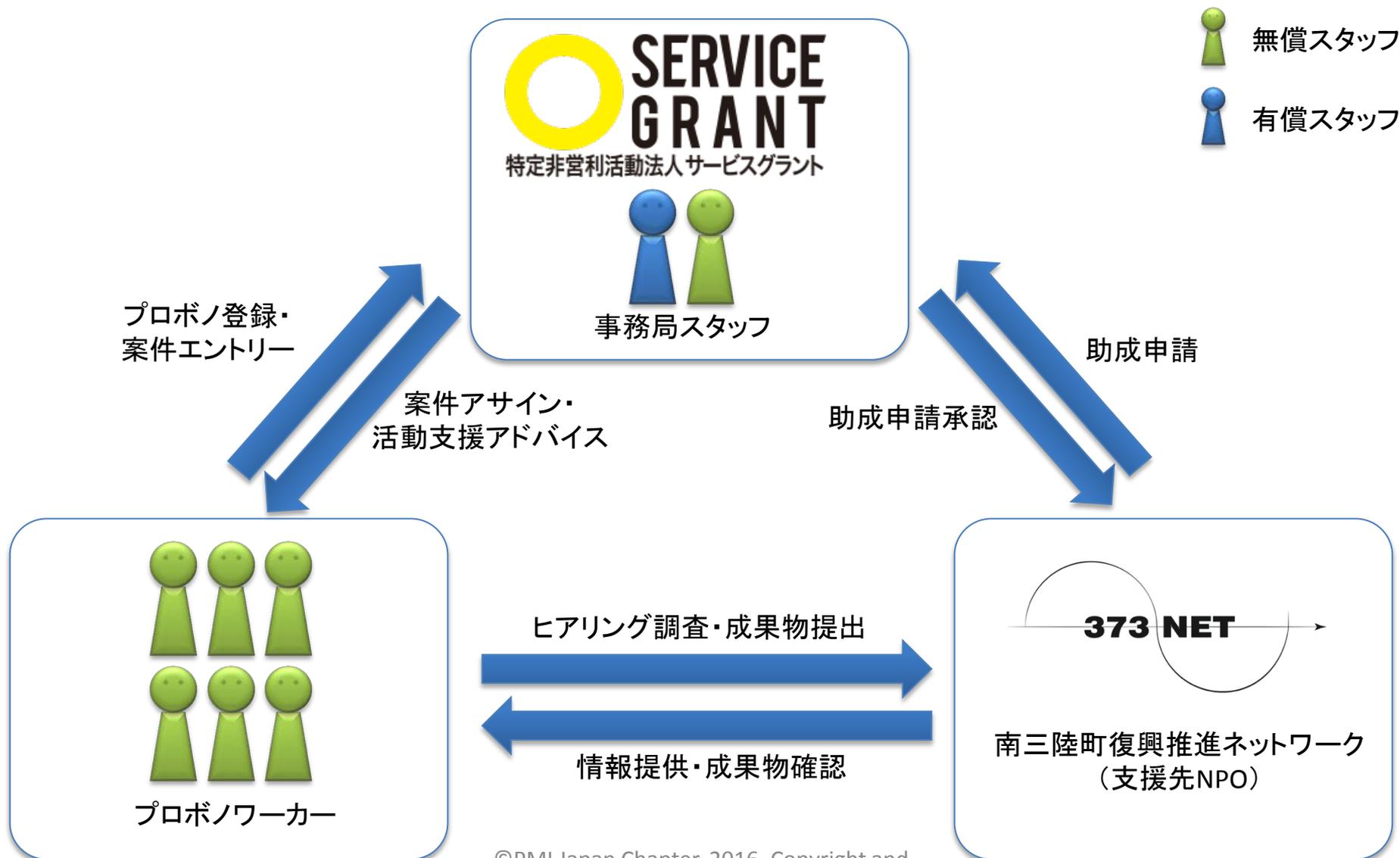
【ホームページ】
<http://www.373net.org/>

＜南三陸わらすこ探検隊の概要＞



出典：南三陸町復興推進ネットワークHPおよびパンフレットより

プロボノ支援体制



プロボノ活動の様子 (NHK取材映像)



NHKの取材でプロボノ活動が紹介された



Skypeによる遠隔ビデオ会議の様子



チームメンバーの方々



支援先NPOの方々(左側)

プロボノ活動経緯

	主な出来事
2015年12月	プロボノプロジェクトに立候補
2016年1月	チームメンバーとして内定
2016年2月	プロジェクトキックオフ ※Skypeを使った遠隔ビデオ会議をNPOと実施 以後、支援先NPOの提示資料を元に業務分析を行い成果物を作成
2016年3月	第一回現地ヒアリングを実施(総勢2名※大沼含む)
2016年4月	第二回現地ヒアリングおよび中間提案を実施(総勢6名※大沼含む) ★現行業務(AS-IS)の業務一覧・業務フローについては納品完了
2016年5月	第二回現地ヒアリングの結果を受けて、業務改善提案を作成
2016年6月	成果物納品(予定)
2016年7月	プロジェクト終了(予定)

1) 思い通りに進まない

- 業務分析の資料が不足していたり、業務フローそのものが属人化しているため、全体像の把握が難しい。また、ゴールが定まらないため、作業見積もりが立てられない。

2) ニーズの把握とゴール設定が難しい

- 業務改善提案の方向性を探るのに手間取った。当初、プロボノチームではコスト削減や効率化の提案を中心に検討していたが、NPOは特に望んでいないことが判明。

ソーシャルプロジェクトの典型的な課題に直面した

プロボノプロジェクトで実践したこと

- 1) 共感、観察、傾聴によるNPOの潜在ニーズの調査。
 - ⇒現地ヒアリングを二回実施し、二回とも参加。
 - ⇒NPOの立場になりきって、話の流れに沿って出たとこ勝負でとことん聞いた。
 - ⇒わらすこ探検隊の実施日に参加し、あらゆるものをつぶさに観察した。
- 2) 潜在ニーズの分析から得られたインサイトの共有、仮説立案。
 - ⇒対面ヒアリングで聴き出したNPOの潜在ニーズを分析
 - ⇒分析した潜在ニーズを元に、業務改善提案の方向性を模索。
- 3) 仮説に基づく手探りでの成果物作成と検証の高速ループ。
 - ⇒【完成度50%】の成果物を速攻で作成し、チームメンバーに提示。
 - ⇒チームメンバーのフィードバックを即座に反映しチームメンバーに再提示。
 - ⇒上記を頻繁に繰り返し、【完成度80%】の成果物をMVP(Minimum Viable Product)として支援先NPOに提示。
 - ⇒支援先NPOも業務で確認しながらMVPに随時修正を加え100%を目指す。

ソーシャルデザイン思考とソーシャルアジャイルマネジメントは有効だった

プロボノプロジェクトで得たもの

【学び】

NPO法人は営利目的の企業と異なる考え方で行動する。コスト削減や効率化を図る業務改善よりも、NPO法人の価値観や存在意義を守るための提案が優先されることが理解できた。

【経験】

業務改善提案の方向性を探るのに手間取ったり、計画を立てづらかったり、支援先が遠隔地のため意思疎通が図りにくいなど、様々な障害があったが、即席混成部隊のプロジェクトチームにもかかわらず、力を合わせて乗り越える体験ができた。

プロボノは職業上のスキルや専門的知識を活かせる社会貢献活動だった

- どうしたらプロボノに参加できますか？
 - NPOを支援するNPO(サービスグラントなど)を通じてプロボノプロジェクトに応募し、選考に通過すると参加できます。
- 活動内容はどのような感じですか？
 - キックオフやヒアリング(現地/ビデオ会議)などを除き、基本的に在宅でPCを使った作業となります。
 - チームメンバーとはメールリストやオンラインストレージを使ってやりとりします。
 - 活動期間は6ヶ月間、作業時間は週5時間が目安とされておりま。
- 参加してみたの感想はどうですか？
 - 見るもの聞くものが新しく、それでいて自分のスキルや知識が活かせるので「楽しい」です。
 - チームメンバーも多様で様々な意見があるので勉強になります。
 - 何よりも目の前の方々のために活動し、喜ばれるのが醍醐味です。
- 本業や私生活に差し障る時はありませんか？
 - 本業や私生活が忙しい時はお互い様なので、チームメンバーにその旨伝えれば、作業負担を軽減してもらえると思います。
- 必要な経費(交通費・宿泊費・印刷費など)は自腹ですか？
 - 事務局や支援先の事前承認は必要ですが、必要な活動経費は支給されます。

おわりに

ソーシャルPM研究会に関心を持たれた方へ



1項目でも該当する方は是非ご参加お願いします！

- プロジェクトマネジメントの手法を活かして、社会活動を解決していきたい
- 社会活動に関わる、プロジェクトマネジメントの手法を開発、普及させたい
- 社会活動に、どのようにプロジェクトマネジメントを適用させると効果的であるか、ディスカッションしたい
- 社会活動の事例を知りたい、グループ・メンバーと共有したい
- PMI日本支部のメンバーとして、研究会の活動に参加してみたい

ご参加いただくことで得られるメリット

- ソーシャル・プロジェクトマネジメントに関わる意見交換、情報連携ができる
- PMI日本支部ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会が主催する、ソーシャルPMワークショップ、セミナーの情報を入手できる
- PMI日本支部ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会の研究事例、活動情報をいち早く知ることができる
- 他団体、NPOなどの社会活動の最新事例を知ることができる

ソーシャルPM研究会に関心を持たれた方はこちらのサイトへ

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/social_pm.php



ご清聴ありがとうございます。

□ <お問い合わせは>

□ PMI日本支部 ソーシャルPM研究会

✓ 高橋正憲 mtakahashi@p05.itscom.net